

行政視察報告

ぎいん見聞録

議会運営委員会行政視察報告 10月4日～6日

◎佐藤 和雄、◎酒井 健、野崎久雄、杉井 旬、横山一雄、武藤 元美、長橋一弘、笹川信子

○市議会を活性化(京都府亀岡市)

議員定数の削減、議会報告会の開催、決算審査における事務事業評価、閉会中の文書質問、本会議のほか予算・決算特別委員会のインターネット配信など議会改革を進めていく中でも、議会から市民への情報発信を積極的に進めておられました。

議会の存在価値をどのようにアピールするかも大事で、今後いろいろな取り組みを行っていくそうです。



京都府亀岡市役所

○議会災害対応マニュアルを策定

(奈良県大和郡山市)

市災害対策本部が設置されたとき、議会も議長を本部長に災害対策本部を設置し、各議員からの情報を収集、整理し、市災害対策本部へ情報の提供と対応を要請することとしていました。市災害対策本部に対する議会の窓口が一本化されることで、確認もスムーズになり緊急度別の対応もでき、迅速な市民への対応につなげておられました。



奈良県大和郡山市役所

○継続的に制度を見直し(奈良県奈良市)

市民に分かりやすく、見える議会制度とするため正副議長選挙の立候補制、反問権の導入、議員の政治倫理条例の全部改正、文書質問や議会報告会、情報通信機器の会議への持ち込み、議会改革に伴う市民意識調査を経て議会基本条例を制定するなど、議会、議員活動を活発に行っておられました。今後も継続的に議会制度の見直しを行っていくそうです。



奈良県奈良市役所

○まとめ

市民に対する議会への関心を高めるためには、活発に議会活動、議会改革に取り組むことが必要であり、そのためには議会活動に専念できる条件整備が大事だと感じました。また、7・13水害や7・29水害を鑑みると、議会の災害対応マニュアルの必要を感じました。

この行政視察で得られた事項を参考に、さらに調査研究を行っていきたいと思います。

総務文教常任委員会行政視察報告 10月26日～28日

◎岡田竜一、◎野崎久雄、佐藤和雄、名古屋豊、横山一雄、小林 誠、長橋一弘、野崎正志

2校に1名専任学校司書を配置

○学校図書館の充実について

(愛知県西尾市)

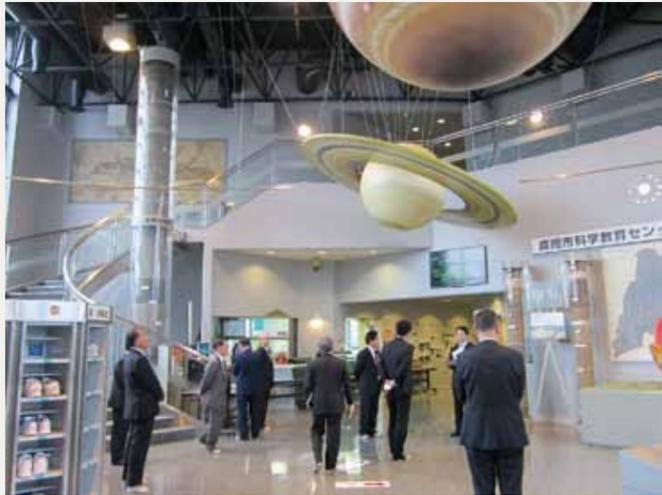
西尾市では、平成15年度から司書教諭以外に専任の学校司書を2校に1名配置しています。学校司書は選書、読書指導、図書館の壁面構成や陳列など授業に役立つ学校図書館づくりや学習活動を支援する取り組みを行っています。また、学校図書館システムを導入して各小学校間の連携を図り、読書傾向などを学級担任と共有し、さらに学校間での図書共有を行っています。司書のマンパワーとシステムの連携により学校図書館を活性化し、学力向上に取り組んでいました。

他自治体の経験と民間事業者のノウハウを最大限に活用

○ファシリティマネジメントについて

(千葉県流山市)

流山市では、平成26年度からファシリティマネジメント推進室を設置し、トップダウンとボトムアップを併用した推進体制で施設管理を行っ



真岡市 科学教育センター

金調達を最大限に活用し、新たな財政負担を伴わないスキームによる施設管理に取り組んでいました。

さまざまな授業の仕掛けと教材教具を充実

○真岡市科学教育センターについて

(栃木県真岡市)

真岡市では、「育てよう科学する心」を基本理念として、平成5年にプラネタリウム、科学実験室などを備えた科学教育センターを開設しました。市内の小学3年生から中学3年生までが同センターに年2回入所し、さまざまな

○まとめ

授業の仕掛け、また児童生徒一人一人が観察や実験ができるよう教材教具の充実に向けておられました。このほか同センターでは、教員を対象として理科教育研修や学習サポートなどを行っており、教員の指導力向上にも取り組んでいました。

ファシリティマネジメントについては、自治体の状況により手法としてなじむ、なじまないがあるが、流山市の民間事業者からの事業提案受け付けと全国自治体とのネットワークの積極的な活用は、三条市にとって有効な手法の一つと感じました。

また、科学教育センターについては、さまざまな授業の仕掛け、教材教具の充実により児童生徒の五感に訴える形態となっており、学ば児童生徒にとって理想的な環境であると感じました。